

第1回豊橋市立地適正化計画改定検討委員会 議事録

1. 日時： 令和3年8月31日（火）14時00分～
2. 方法： Web会議（Zoom）
3. 出席者： 浅野純一郎（豊橋技術科学大学建築・都市システム学系教授）、
荒木裕子（名古屋大学減災連携研究センター特任准教授）、
中居楓子（名古屋工業大学大学院工学研究科助教）
高木一恵（防災ママかきつばた代表）
手塚 誠（自治連合会理事）
南 恵（女性防火クラブ連絡協議会会長）
国村一郎（国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所長）
小井手秀人（代理：菅沼克文）（愛知県都市基盤部都市計画課課長）
白村 暁（代理：渡會竜二）（愛知県東三河建設事務所長）
金子知永（豊橋市都市計画部長）
オブザーバー： 嘉戸重仁（代理：富山 裕）（国土交通省中部地方整備局都市調整監）
4. 事務局： 山本高敬（都市計画課長）、石原 幸治（都市計画課主幹）、
鈴木且真（都市計画課主査）、吉川慎吾（都市計画課）
5. 議事内容：
 - (1) 立地適正化計画改定検討委員会設置要綱について
 - (2) 立地適正化計画の改定（防災指針の策定）概要について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) 【報告事項】現在の分析状況について
6. 議事概要：
 - (1) 立地適正化計画改定検討委員会設置要綱について
意見なし
 - (2) 立地適正化計画の改定（防災指針の策定）概要について
意見なし
 - (3) 今後のスケジュールについて
意見なし

(4) 【報告事項】現在の分析状況について

【委員】

津波、高潮による浸水と河川、内水による浸水を分析する際に、分析の視点や注意点について何が違うのか。

【委員】

高潮は暴風により発生する災害であり、津波との違いは台風などの暴風が来る前に避難する時間があることである。そのため、高潮の場合は、浸水してからの避難でなく、暴風が到着する前に早めに避難することが望ましい。

また、暴風が発生する場合に、風速が50m/s以上になると高圧鉄塔が倒れる恐れがある。そのような事態に備え、市内に、特に市街地において、高圧鉄塔の立地及び高圧鉄塔が倒れる恐れがあるエリアについて、市が把握しておく必要があると思う。

【委員】

大清水地区周辺には竜巻が発生することがあるが、竜巻については防災指針の検討に入らないのか。

【事務局】

豊橋市で竜巻、突風が起こっているエリアはあるため、それらも災害として認識はしている。しかし、風災害に関しては分析にあたって想定が難しいことから、今回の検討対象として取り上げないことにした。

【委員】

計画規模と想定最大規模の考え方は今回の検討において、理解の前提だと思う。今日の説明を聞いている中で、それぞれの確率で降る雨の量という意味と理解しているが、それでよいか。

【委員】

計画規模については、実際に起きているかどうかに関わらず、過去の降雨の統計データから確率処理をした雨の強さと雨量として考えていただきたい。

想定最大規模については、様々な条件を重ね合わせて演算したものである。

【委員】

計画規模、想定最大規模の洪水浸水想定区域図は、どこかが切れた場合に浸水する区域を示していると思う。過去の洪水の実績として、堤防に対してどのぐらいの水位に達したことがあるか教えていただきたい。現状は霞堤がまだ完成していないが、霞堤が完成すると、ここまで浸水しなくなるのではないかと。

堤防を整備する際に、どこかの堤防が弱いかについてはあらかじめ把握しているのか。もしあらかじめ把握していれば、そのような区域に避難計画を作るとよいと思う。

【委員】

浸水想定区域図はどこか一カ所だけではなく、上流から下流、川の左岸・右岸など、多くの場所が切れたことによって浸水すると想定された区域を示す図である。堤防整備の完成の有無に関わらず、万が一堤防が決壊した場合に浸水するリスクがあることを示すものである。

堤防の弱い箇所については、堤防が低い所や、堤防の厚さが足りない所、過去の災害によって漏水が発生している所などがある。過去の災害履歴を含め、それらの所は重要水防箇所として公表されている。水防活動の時に、それらの箇所を重点的に巡視・確認し、必要な対策を講じている。過去に重要水防箇所における浸水が発生しており、今後雨等の降り方によって、重要水防箇所をはじめ、水が溢れ浸水するリスクはある。防災指針の検討は、それらを踏まえて進めていけばよい。

【委員】

豊橋市は豊川の最下流にあり、上流の影響も受けると思うが、堤防はどこまで整備されているのか。また、重要水防箇所は完成堤防の中にも存在するのか。

【委員】

堤防整備の最新の状況については確認させていただきたい。

完成堤防になっていても、漏水、地盤漏水などによって重要水防箇所になることはある。災害などの影響を受けた堤防については監視しており、必要に応じ、重要水防箇所と位置付けている。

【委員】

雨水の排水の計画として、現状でどのぐらいの降雨に備えて排水施設を整備しているのか。

【事務局】

確認させていただく。

【委員】

豊橋市は今後、盛土について調査する予定はあるのか。

【事務局】

建築指導課はすでに大規模盛土について調査を行っており、本市には大規模盛土は存在しない。

【委員】

今回は防災指針の検討で、立地適正化計画を改定している。立地適正化計画自体は一定期間で評価し、見直されることになっているが、今回の検討はその内容は含まないのか。

【事務局】

今回の検討に、立地適正化計画の評価については含んでいない。

【委員】

現行の計画では、居住誘導区域から土砂災害レッドゾーンは抜けているが、そのレッドゾーンに急傾斜地崩壊危険区域は含まれていないのか。

【事務局】

本市はすでに対策を講じているため、現時点の居住誘導区域には急傾斜地崩壊危険区域は含まれている。

【委員】

垂直避難が困難な場合、避難施設への避難は想定されているが、災害の種類によって避難施設は本当に安全なのか、各地区の避難人口を吸収するに避難施設の数に十分なのか、災害の状況によって避難施設の収容キャパシティは十分なのかといった問題について整理、把握する必要がある。

【事務局】

いただいたご意見を参考し、作業を進めさせていただきたい。

【委員】

避難施設の利用については地域によってアクセスのしやすさが変わる。ハザードマップからは避難施設が多く立地しているように見えるが、市民にとって災害時に本当にたどり着ける施設なのかについては整理する必要がある。

市民にどのような時に、どのような避難施設に行けばよいかをきちんと示していくと、居住誘導に関してもよりスムーズに進めると思う。

【事務局】

いただいたご意見を参考し、今後分析の視点を持ちつつ、作業を進めさせていただきたい。

以上